

令和6年度

鍼灸学研究科 修士課程

鍼灸学専攻（通信教育課程）

授 業 計 画

（シラバス）

明治国際医療大学大学院

令和6年度 大学院 修士課程 鍼灸学専攻（通信教育課程） 教育課程

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	分野				時間数	備考
				伝統鍼灸学	鍼灸基礎医学	鍼灸臨床医学	健康予防鍼灸学		
				必修	必修	必修	必修		
基盤科目	統合医療学特論	1	1	1	1	1	1	15	
	研究計画法特論	1	2	2	2	2	2	30	
	医療英語講読特論	1	1	1	1	1	1	15	
	データ解析学特論	1	2	2	2	2	2	30	
	英語プレゼンテーション学特論	1	1	1	1	1	1	15	
専門科目	基礎鍼灸医学	1	4	4	4	4	4	60	
	臨床鍼灸医学	1	3	3	3	3	3	45	
	教育学概論	1	1	1	1	1	1	15	
	鍼灸医学特論	1	1	1	1	1	1	15	
	伝統鍼灸学研究法	1	2	2				30	
	鍼灸基礎医学研究法	1	2		2			30	
	鍼灸臨床医学研究法	1	2			2		30	
	健康予防医学研究法	1	2				2	30	
	伝統鍼灸学演習	1・2	4	$\frac{4}{(2)}$				120	
	鍼灸基礎医学演習	1・2	4		$\frac{4}{(2)}$			120	
	鍼灸臨床医学演習	1・2	4			$\frac{4}{(2)}$		120	
	健康予防医学演習	1・2	4				$\frac{4}{(2)}$	120	
	特別研究Ⅰ	1・2	1	$\frac{1}{(0.5)}$	$\frac{1}{(0.5)}$	$\frac{1}{(0.5)}$	$\frac{1}{(0.5)}$	30	
	特別研究Ⅱ	1・2	5	$\frac{5}{(2.5)}$	$\frac{5}{(2.5)}$	$\frac{5}{(2.5)}$	$\frac{5}{(2.5)}$	150	
	特別研究Ⅲ	1・2	2	$\frac{2}{(1)}$	$\frac{2}{(1)}$	$\frac{2}{(1)}$	$\frac{2}{(1)}$	60	
医療機関実習	1・2	4					120	自由科目	

単位数欄の（）は面接授業による単位数で内数

修了に必要な単位数は、必修科目24単位ならびに研究法2単位以上、演習4単位以上を選択必修し、合計30単位以上とする。

目 次

基盤科目

1. 統合医療学特論	1
2. 研究計画法特論	3
3. 医療英語講読特論	5
4. データ解析学特論	7
5. 英語プレゼンテーション学特論	11

専門科目

1. 基礎鍼灸医学	13
2. 臨床鍼灸医学	20
3. 教育学概論	26
5. 鍼灸医学特論	28
6. 伝統鍼灸学研究法	30
7. 鍼灸基礎医学研究法	31
8. 鍼灸臨床医学研究法	32
9. 健康予防医学研究法	33
10. 伝統鍼灸学演習	34
11. 鍼灸基礎医学演習	35
12. 鍼灸臨床医学演習	36
13. 健康予防医学演習	37
14. 特別研究Ⅰ	38
15. 特別研究Ⅱ	39
16. 特別研究Ⅲ	40
17. 医療機関実習	

■ 基盤科目

授 業 科 目 名	統合医療学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 伊藤和憲					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療とCAM、⑦統合医療と高齢者、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。</p>					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療とは何かを理解する 2. 統合医療の治療法について概要を理解する 3. 未病や養生の概念について理解する 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	<p>[授業概要] 統合医療の歴史的背景 [到達目標] 統合医療がなぜ生まれたのかの歴史的背景が理解できる</p>			特になし		
2	<p>[授業概要] 統合医療の必要性 [到達目標] 現代の医療のなかで何故統合医療が必要となったのかが理解できる</p>			特になし		
3	<p>[授業概要] 日本における統合医療の現状 [到達目標] 日本の中で統合医療はどのように用いられているのかが理解できる</p>			特になし		
4	<p>[授業概要] 統合医療の実際 [到達目標] 様々な統合医療の利点や適応疾患などの概要が理解できる</p>			特になし		
5	<p>[授業概要] 統合医療の実践 [到達目標] 本学での統合医療の取り組みやその意味が理解できる</p>			特になし		
6	<p>[授業概要] 統合医療と今後の医療 [到達目標] 統合医療の次に必要な健康観を理解できる</p>			特になし		

7	[授業概要] これからの統合医療 1 [到達目標] 医療のパラダイムシフトと未病の考え方が理解できる	特になし
8	[授業概要] これからの統合医療 2 [到達目標] 地域のつながりと予防	
テキスト(配付資料)	配布資料	
参 考 文 献	統合医療 (金房堂) 今日から始める養生学 (集英社インターナショナル)	
評 価 方 法	レポート課題と出席による	
その他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	研究計画法特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 渡邊康晴					
テ ー マ	学会発表、論文作成ができる研究計画を作る					
授 業 の 概 要	<p>研究とは、現象やメカニズムなどが明らかにされていない事象に対して、研究計画を立て、実験・調査を行い、得られたデータを解析し結論を得た上で、社会に対して結果を発表するまでの一連の過程である。研究を成功させるためには、リサーチクエスチョンを立て、緻密な研究計画を立てる必要があり、そのためには、過去の多くの先行研究の知識、研究・調査方法に関する知識、データ解析法などを学修しなければならない。</p> <p>本科目では、研究を行うために必要な一連の事柄を理解した上で、仮想のテーマによって研究計画を立てる、研究倫理を考慮するなどの演習を通して研究を行う上で基本的な知識を修得する。</p>					
授 業 目 標 ・ 視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の研究計画を立てることをゴールとする 2. 研究に必要な一連の事柄を理解する 3. 様々な研究手法があることを理解する 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 実験研究の流れ [到達目標] 実験研究に関する流れが説明できる			実験研究の事例を参照しつつ、自身の研究の大まかな流れを作成する		
2	[授業概要] 研究倫理を知る [到達目標] 研究遂行に際し、必要な倫理・配慮について説明できる			研究倫理の web 教育をもって準用するので、必ず受講すること		
3	[授業概要] 文献を調べる [到達目標] 自身の研究に必要な国内外の文献を集めることができる			自身の研究において、背景、方法、等で参考となる論文を集める		
4	[授業概要] 研究課題を作る [到達目標] 帰納的推論と演繹的推論の違いが説明でき、仮説形成が行える			自身の研究領域において、検証可能な仮説を作ること		
5	[授業概要] 実験デザインに必要な統計の基本 [到達目標] 実験研究をデザインする上で必須の統計が理解できる			前講で作成した仮説に対し、必要な統計について調べること		
6	[授業概要] 基礎研究の実験デザイン [到達目標] アウトカムの設定とコントロール設置の必要性が理解できる			実験研究の論文を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる		

7	[授業概要] 臨床研究の実験デザイン [到達目標] 臨床研究の実験デザインの種類とエビデンスのレベルが分かる	臨床研究の論文(症例報告・症例集積も可)を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
8	[授業概要] 調査研究の実験デザイン [到達目標] アンケート調査の実験デザインがわかる	調査・質的研究の論文を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
9	[授業概要] 質的研究の実験デザイン [到達目標] 質的研究の種類や方法が理解できる	
10	[授業概要] 学会に発表しよう [到達目標] 学会での発表形式を説明でき、質疑応答の必要性を理解できる	自身の研究デザインで学会発表を行うと仮定し、目的と方法のスライドを作成する
11	[授業概要] 研究結果を論文にしよう [到達目標] 研究結果の制限(限界)について論じることができる	自身の研究デザインの制限について検証し、文章でまとめる
12	[授業概要] 査読について [到達目標] 査読と批判的思考の必要性について説明できる	論文を1編えらび、自身が査読者になったと仮定して、批判的に精読し、問題点を指摘する
13	[授業概要] 研究プロトコルの作成 [到達目標] 興味のある分野について、研究プロトコルを作成できる	研究プロトコルを作成した上で、予想される結果、その結果の解釈の概略をまとめる
14	[授業概要] まとめ [到達目標] 自身が行いたい研究テーマで実験計画を立案できる	立案した実験計画を遂行する際の課題点とその対策についてまとめる
15	[授業概要] まとめ [到達目標]	
テキスト(配付資料)		配布資料
参 考 文 献		授業時に適宜、指示する。
評 価 方 法		授業時間外学習で示した課題の取り組み状況と出席状況によって評価する。
その他(アドバイス等)		授業では一般的な研究計画の方法について講義する。大学院担当の教員は優れた研究者であり、個々に十分な研究経験を有することが多い。これらの教員の研究経験を積極的に聴取すると、研究デザインの幅を広げる助けとなる。

授 業 科 目 名	医療英語講読特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 林 知也					
テ ー マ	英語論文を正確に読める能力を身につける。					
授 業 の 概 要	<p>研究を行うためには先行研究の多くの論文を読み、理解しなくてはならない。よほどの狭い分野でない限り、研究で得られた知識は日本だけでなく、世界共通となるため、論文は基本的には英文が主体となる。すなわち英語論文が読めなくては研究ができない。英語論文は専門用語が多用され、かつ共通したマナーがあるため、それらマナーを理解しなくてはならない。本科目では、英語論文を読み書きするための基本的能力を実際の論文を用いて理解し、学修する。</p>					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	<p>専門用語は、院生の研究テーマによって若干の違いがあるため、それらの単語を覚えさせることに主眼を置くのではなく、論文共通のマナーを理解させることを主眼とする。</p>					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	<p>[授業概要] 英語論文の概要について [到達目標] Abstract, Introduction, Methods (Materials & Methods), Results, Discussion, Reference, Figures & Tables の意味, 役割を理解する。</p>			<p>Pubmed などの検索データベースを使って英語論文の検索ができるようにする。</p>		
2	<p>[授業概要] 1 つ目の論文の Abstract, Introduction について [到達目標] Abstract, Introduction の役割を理解した上で、内容を理解する。</p>			<p>1 つ目の論文の Abstract, Introduction を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。</p>		
3	<p>[授業概要] 1 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables について [到達目標] Method, Results, Figures & Tables の役割を理解した上で内容を理解する。</p>			<p>1 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。</p>		
4	<p>[授業概要] 1 つ目の論文の Discussion について [到達目標] Discussion の役割を理解した上で、内容を理解する。</p>			<p>1 つ目の論文の Discussion を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。</p>		

5	[授業概要] 2 つ目の論文の Abstract, Introduction について [到達目標] Abstract, Introduction の役割を理解した上で、内容を理解する。	2 つ目の論文の Abstract, Introduction を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
6	[授業概要] 2 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables について [到達目標] Method, Results, Figures & Tables の役割を理解した上で内容を理解する。	2 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
7	[授業概要] 2 つ目の論文の Discussion について [到達目標] Discussion の役割を理解した上で、内容を理解する。	2 つ目の論文の Discussion を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
8	[授業概要] 3 つ目の論文としての short communication について [到達目標] original article との違いを理解した上で、内容を理解する。	3 つ目の論文としての short communication を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
テキスト(配付資料)	4 つの英語論文を配布する。	
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な英日辞書 ・医学専門用語の英日辞書 ・医学の専門用語が十分に掲載されている英語の電子辞書など 	
評 価 方 法	4 つ目の英語論文の内容理解についてレポートにて評価する。	
その他 (アドバイス等)	事前に英語論文の検索方法を学んでおくこと。	

授 業 科 目 名	データ解析学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 渡邊康晴、梅田雅宏、酒井晃二、河合裕子、星野明子					
テ ー マ	研究データの示し方や取り扱いを学修する					
授 業 の 概 要	<p>研究によって得られたデータの整理の仕方、PC への入力の仕方及びそれらの解析方法の基本を学修する。本科目では、基本統計学を基礎として、多くの統計手法について各々の特徴を理解し、目的に応じた統計処理ができるように学修する。また医療の領域で用いられる質的研究方法 (GTA、エスノグラフィ等) のデータ収集及び解析方法についても教授する。前半は表計算ソフトの復習と統計手法及び質的研究手法の説明を行い、後半は実データを用いた統計分析、質的分析を実践する。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全15回)</p> <p>(渡邊康晴・梅田雅宏・河合裕子/10回) (共同) Excel を中心とした研究データの整理とデータの提示、統計解析法の基礎事項について教授する。</p> <p>(酒井晃二/2回) 測定と誤差の理解、G*Power を利用したサンプル数の決定</p> <p>(星野明子/3回) 保健医療の領域における質的研究法、データ解析方法等について教授する。</p>					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計測された数値データや文書データの扱い方について学習する 2. コンピュータを用いてデータを適切に処理・整理する 3. データの見方、客観的な判断方法の統計手法の選択を学習する 					
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1 (河合)	<p>[授業概要] excel や spreadsheet など表計算ソフトの使い方1(基礎編)</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトの基本的な利用法からグラフ作成、関数利用などが行えるようになる。</p>			<p>Excel の稼働を確認して各自準備しておくこと。Excel が正常に動作しない場合(編集権限がないなど)は ICT に連絡を取りアカウントなどの確認を済ませておくこと。</p> <p>Excel の入力や関数利用などの基本項目は各自自習して講義に臨むこと。</p>		
2 (河合)	<p>[授業概要] 表計算ソフトの使い方2(応用編)</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを使ってデータを様々な解析する発展的利用法まで行えるようになる。</p>			<p>解析したいデータなどを各自見つけておくこと。</p>		

<p>3 (河合)</p>	<p>[授業概要] 表計算ソフトの使い方 3(応用編)および統計の基本的な考え方について理解する。 [到達目標] 少し大きなデータを表計算ソフトで扱うときの工夫や注意などを理解し、わかりやすいデータのまとめ方ができるようにする。統計手法が選択できる。</p>	<p>2 の復習を各自参考書で行っておく。</p>
<p>4 (梅田)</p>	<p>[授業概要] Excel での t 検定を行う方法について復習する。各自の PC に無料で公開されている画像解析ソフト ImageJ をインストールし、MRI データをダウンロードして準備する。また運動による MRI 画像コントラスト変化について理解する。 [到達目標] ImageJ を各自 PC にインストールして T_2^* 計算が実行でき、Excel などの表計算ソフトを用いて検定ができ、MRI 特徴料の変化から生体の変化を読み解くことができる。計測データ、統計処理、結果の解釈などを課題レポートして提出する(成績評価対象)。</p>	<p>HP を見て各自、Excel での t 検定とその復習を行い、各自の PC に ImageJ をインストールしてその使い方を自習しておく。</p>
<p>5 (梅田)</p>	<p>[授業概要] ImageJ と骨格筋 MRI のサンプルデータから ImageJ を用いて T_2^* 計算画像を作成し、運動前と運動後の関心領域の T_2^* の差を検定する。 [到達目標] ImageJ を各自 PC にインストールして T_2^* 計算が実行でき、Excel などの表計算ソフトを用いて検定ができる。</p>	<p>HP を見て各自 PC に ImageJ をインストールしてその使い方を自習しておく。</p>
<p>6 (梅田)</p>	<p>[授業概要] ノンパラメトリック検定の例として Willcoxon の順位和検定を取り上げる。表計算ソフトの練習を兼ねて、Willcoxon の順位和検定を Excel にて行う。 [到達目標] Willcoxon 検定の作業の仕組みを理解し、Excel の操作を学習する。</p>	<p>HP に掲載された Willcoxon 検定作業方法を理解しておく。</p>
<p>7 (梅田)</p>	<p>[授業概要] ウェアラブルデバイスを利用した生体情報収集の仕組みおよび生体情報センサーについて解説する。 [到達目標] 生体情報収集の仕組みと問題を理解する。</p>	<p>HP に掲載されているウェアラブルデバイスに情報収集について予習しておく。</p>

8 (酒井)	[授業概要] データ集計の基本及び仮説検定の考え方1 [到達目標] 簡単なデータ集計を行えるようにする。また、仮説検定の原理を理解し、仮説をたてられるようにする。	
9 (酒井)	[授業概要] Excel を用いて集計したデータを検定する [到達目標] PC を用いて収集したデータを検定おこない、データ収集を検定することの意味を理解する。	G*Power 3.1.9.2 の予習 http://www.psychologie.hhu.de/ 内容を確認すること。 統計検定力について調査すること。
10 (渡邊)	[授業概要] クロス集計表を用いた統計 [到達目標] クロス集計表を活用し、度数を用いた統計が行え、感度と特異度の違いが理解できる。	
11 (渡邊)	[授業概要] 3群以上の統計1 [到達目標] 1元配置分散分析が実施でき、その結果を解釈できる。	
12 (渡邊)	[授業概要] 3群以上の統計2 [到達目標] 2元配置分散分析が実施でき、その結果を解釈できる。	
13 (星野)	[授業概要] 質的研究の問い、主なデータ収集方法について学修します。 [到達目標] 質的研究の特徴を理解できる。	参考文献等を参考にして、質的研究と量的研究について整理しましょう。
14 (星野)	[授業概要] 質的研究のデータ分析方法と具体的展開について学修します。 [到達目標] 質的研究の主なデータ収集と分析等について理解できる。	授業後に質的研究手法を使用した論文を読み、データ収集方法について確認してみましょう。
15 (星野)	[授業概要] 質的研究方法を用いた論文を紹介し、クリティークします。 [到達目標] 質的研究手法に適した研究の問いと研究プロセスを考えることができる。	興味のある質的研究論文を読んでクリティークしてみましょう。
テキスト(配付資料)	特にテキストは指定しないが、統計の基本的な図書を各自準備し一通り読んでおくこと。	
参 考 文 献	なし。	
評 価 方 法	1) ImageJ による MRI サンプルデータを ImageJ で処理し、緩和時間変化を excel でまとめて t 検定を行い、結果から読み取れる生体の変化について総合的な研究レポートを提出する。 2) 各自の計画している研究計画(何をどのように調べるか、計測方法などを含めて)と、その中で利用する統計手法、手法を選択した	

	理由をまとめる。指導教官と研究打ち合わせが済んでいない方、実験研究を行わない方は仮想的な実験についてこれらを記載したレポートを提出する。
その他（アドバイス等）	参考 URL: 数理統計研究所 https://www.ism.ac.jp/ 明治国際医療大学・医療情報： http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/medinfo_intro

授 業 科 目 名	英語プレゼンテーション学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 鶴 浩幸					
テ ー マ	日本語・英語によるプレゼンテーション方法の習得					
授 業 の 概 要	<p>日本語及び英語を用いた、学術的な資料作成の方法（アカデミックライティングの基礎）、口頭発表の方法、そして質疑応答の方法など、プレゼンテーションに必要とされる学術的技術の基礎を学修していく。</p> <p>講義前半では、日本語によるプレゼンテーション法を学ぶことを通じて、プレゼンテーション能力の基礎を身につけ、後半では、英語によるプレゼンテーションの構成、表現法について学んでいく。またここでは、国際学会へ参加する際に必要となる心得などについても理解を深めていく。</p>					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションとは何かを知る 2. 日本語によるプレゼンテーション法を習得する 3. 英語によるプレゼンテーション法を習得する 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	<p>[授業概要] プレゼンテーションとは・本講義のスケジュールと講義内容</p> <p>[到達目標] プレゼンテーション一般の理解・今後の授業計画説明</p>			自らの研究内容を再確認し、プレゼンテーション作成に備える		
2	<p>[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを考える</p> <p>[到達目標] 日本語でプレゼンテーションの構造について理解を深める</p>			自らの関心に引きつけてプレゼンテーションの構成についてイメージを膨らませる		
3	<p>[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを構成する</p> <p>[到達目標] 日本語でプレゼンテーションのシナリオを作成する</p>			プレゼンテーションのためのスライドを作成する		
4	<p>[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを行う</p> <p>[到達目標] 日本語によるプレゼンテーションと質疑応答を実践する</p>			人前で自分の考え・意見を表現する方法を学ぶ		
5	<p>[授業概要] 英語プレゼンテーション法 I</p> <p>[到達目標] 英語のプレゼンテーション表現を学ぶ (前編)</p>			日本語で構成したプレゼンテーションを英語で表現するためのノウハウを学ぶ		

6	[授業概要] 英語プレゼンテーション法 II [到達目標] 英語のプレゼンテーション表現を学ぶ (後編)	日本語で構成したプレゼンテーションを英語で表現するためのノウハウを学ぶ
7	[授業概要] 英語でのプレゼンテーションを構成する [到達目標] 英語によるプレゼンテーションのシナリオを作成する	プレゼンテーションのためのスライドを英語で作成する
8	[授業概要] まとめ [到達目標] これまでの授業内容を再確認し、今後の課題を検討する	これまでの授業を省み、日本語/英語によるプレゼンテーションの構成を再考する
テキスト (配付資料)	添付資料など。	
参 考 文 献		
評 価 方 法	毎週の課題 (30%) と最終課題 (70%) の提出	
その他 (アドバイス等)	授業内容や課題に取り組む際に質問や意見がある場合は、メールを通じて教員まで連絡するようにしてください。 h_tsuru@meiji-u.ac.jp	

■ 専門科目

授 業 科 目 名	基礎鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者) (○は領域責任者)	◎和辻 直 ○榎原智美 ○林 知也、川喜田健司 ○糸井マナミ ○和辻 直、廣 正基、鶴 浩幸、角谷英治					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、鍼灸医学と関連が深いと考えられる基礎医学的分野および鍼灸医学の伝統的基礎理論分野の各領域における最新の知見について学習し、基礎鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸医学に関連する形態学(特に鍼灸臨床と関係の深い体表解剖及び皮膚の形態)、機能学(特に鍼灸刺激で生じるさまざまな生体现象を理解する基礎となる生体の調節機構)、免疫学(特に免疫系・生体防御系)について教授する。また、鍼灸医学の根底を成す古医書及び鍼灸医学の基礎理論となる経絡経穴学・診察法(四診法)等についてより専門的に教授する。</p> <p>【形態学領域】 (榎原智美/8回) 皮膚の形態と皮膚感覚受容を担う神経形態について教授する。鍼灸刺激の対象である皮膚、鍼灸治療の触診のための感覚受容部としての皮膚を、形態学的に複雑系として把握するための形態学的基盤と、そこに分布する神経形態について教授する。さらにその機能形態学的研究法について教授する。</p> <p>【機能学領域】 (川喜田健司/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。動物機能において特に体性神経系機能などを教授する。 (林 知也/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。植物機能において、特に循環・消化・代謝などについて教授する。</p> <p>【免疫学領域】 (糸井マナミ/8回) 体表刺激の視点から、免疫、生体防御系の成り立ち機能、免疫応答の関わる疾患および神経・内分泌系による制御について教授する。</p> <p>【基礎鍼灸学領域】 (廣 正基/3回) 鍼灸臨床において、これまで生体観察から経穴の存在を明らかにするために、良導点や撮診点などの手法により努力されてきた。それぞれの経穴の捉え方について理解するとともに、特殊鍼法との関連性について教授する。 (鶴 浩幸/1回) 鍼灸臨床における医療過誤(事故)、副作用、インシデント(ヒヤリハット)などについて教授する。予防策などについて教</p>					

	<p>授する。</p> <p>(角谷英治/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として西洋医学の観点で捉えた経路、ツボについて教授する。</p> <p>(和辻直/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として東洋医学の診察法、特に舌診について教授する。</p>	
視点 (ねらい)	<p>【形態学領域】</p> <p>1. 鍼灸臨床における体表解剖学の重要性について理解すること</p> <p>2. 皮膚の形態学的基礎と皮膚感覚受容器について理解すること</p> <p>【機能学領域】</p> <p>1. 体表刺激と体性神経機能との関係について理解すること</p> <p>2. 体表刺激と消化・代謝機能との関係について理解すること</p> <p>3. 体表刺激と循環・生体調節機能との関係について考えること</p> <p>【免疫学領域】</p> <p>1. 免疫系の成り立ちを器官・細胞・分子レベルで理解すること</p> <p>2. 免疫応答及びその調節を器官・細胞・分子レベルで理解すること</p> <p>3. 体表刺激と免疫応答との関係について考えること</p> <p>【基礎鍼灸学領域】</p> <p>1. 東洋医学の基本的な整体観、原因、臓腑や経脈について理解すること</p> <p>2. 経脈理論について理解すること</p> <p>3. 形態医学的・機能学的にみた経絡、ツボについて理解すること</p> <p>4. 舌診の診断的有効性について理解すること</p> <p>5. 鍼灸臨床における安全性を理解すること</p>	
授 業 計 画		
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
1	[授業概要(榎原1)] 皮膚の形態学的基礎 ①	配信教材内に示す参考文献・参考図書(とくに「入門組織学」と「標準組織学 総論・各論」)を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原1)] 細胞・組織学的基礎を復習する。人体を構成する4組織を区別して定義し、器官の組織構成を簡単に解説できる。	
2	[授業概要(榎原2)] 皮膚の形態学的基礎 ②	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原2)] 皮膚組織の基本構造を把握し、皮膚が複雑系の組織であることを理解する。皮膚、粘膜、漿膜の形態学的定義と機能、および皮膚の層構造(表皮・真皮・皮下組織)を組織の特徴とともに解説できる。	

3	[授業概要(榎原3)] 皮膚感覚受容の形態学①	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原3)] 皮膚感覚受容器の定義を理解する。一次感覚神経細胞の細胞体の所在を把握する。	
4	[授業概要(榎原4)] 皮膚感覚受容の形態学②	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原4)] 皮膚感覚受容器と深部感覚受容器の形態的多様性を把握する。	
5	[授業概要(榎原5)] 皮膚感覚受容の形態学③	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原5)] 触覚受容器と痛覚受容器の形態的多様性を区別して理解する。複数の機械受容器の形態的特徴を概説できる。	
6	[授業概要(榎原6)] 神経機能形態学研究法① 末梢神経系のマクロ解剖学	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原6)] 脊髄神経系のマクロ解剖を復習する。	
7	[授業概要(榎原7)] 神経機能形態学研究法② 神経組織を可視化するための手法と実際	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原7)] 神経を可視化するための基本的手法を理解する。	
8	[授業概要(榎原8)] 神経機能形態学研究法③ 単一神経細胞を可視化するための手法と実際	配信教材内に示す参考文献・参考図書を参考に、小テストをクリアしてください。
	[到達目標(榎原8)] 単一ニューロンを可視化するための基本的手法を理解する。	
9	[授業概要(川喜田1)] 体表刺激で興奮する体性感覚受容器	関連論文および資料の読解
	[到達目標(川喜田1)] 各種受容器の特徴を理解させる。	
10	[授業概要(川喜田2)] ポリモーダル受容器の構造と機能	関連論文および資料の読解
	[到達目標(川喜田2)] ポリモーダル受容器の持つ役割について理解させる。	
11	[授業概要(川喜田3)] 体性感覚刺激でおこる筋緊張緩和作用	関連論文および資料の読解
	[到達目標(川喜田3)] 筋緊張の調節機構を理解させる。	
12	[授業概要(川喜田4)] 体性感覚刺激でおこる鎮痛作用	関連論文および資料の読解
	[到達目標(川喜田4)] 内因性鎮痛機構を理解させる。	

13	[授業概要(林1)] 消化・吸収機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林1)] 消化・吸収機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
14	[授業概要(林2)] 代謝機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林2)] 代謝機能の内、特にエネルギー代謝機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
15	[授業概要(林3)] 循環機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林3)] 循環機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
16	[授業概要(林4)] ストレスに対する生体調節機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林4)] ストレスに対する生体調節機能の内、特に内分泌機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
17	[授業概要(糸井マ1)] 生体防御系の成り立ち：血液系細胞およびリンパ系細胞の特徴と機能およびその分化、リンパ系組織・器官の構造と機能	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ1)] 生体防御系の全体像を把握し、免疫系細胞および器官の機能を理解する	
18	[授業概要(糸井マ2)] 自然免疫：補体・貪食細胞・NK細胞・自然リンパ球	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ2)] 自然免疫による異物処理機構とサイトカイン産生について理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。	
19	[授業概要(糸井マ3)] 獲得性免疫：T細胞とB細胞の分化、抗体と活性化T細胞(エフェクターT細胞)の特徴と機能	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ3)] T細胞およびB細胞の分子背景、抗原認識受容体の多様性形成、自己寛容について理解する。抗体のクラス特異的特徴と機能、ヘルパーT細胞(Th1, Th2, Th17)と細胞障害性T細胞の特徴と機能を理解する。	

20	[授業概要(糸井マ4)] 免疫応答調節と細胞移動－急性炎症	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ4)] サイトカイン、ケモカインおよび細胞接着による免疫応答調節のメカニズムを理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。	
21	[授業概要(糸井マ5)] 感染免疫	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ5)] 細胞外細菌・細胞内で増殖する細菌・ウイルス等の病原体に特徴的な自然免疫および獲得免疫応答の過程を理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。	
22	[授業概要(糸井マ6)] 免疫異常：アレルギー	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ6)] I～IV型アレルギーの原因と発症のメカニズムについて理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。	
23	[授業概要(糸井マ7)] 免疫異常：自己炎症性疾患と自己免疫疾患	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ7)] 自己抗原に対するII～IV型アレルギーとしての自己免疫疾患の原因と発症のメカニズムについて理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。	
24	[授業概要(糸井マ8)] 神経内分泌免疫	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する
	[到達目標(糸井マ8)] 免疫系の中核および末梢神経系による調節、および内分泌による調節について理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。	
25	[授業概要(廣1)] 良導絡について	参考文献による講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(廣1)] 良導絡の考え方について説明することができる。	
26	[授業概要(廣2)] 良導絡治療の治療方法について	参考文献による講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(廣2)] ノイロメーターを用いた測定および治療方法が説明できる	
27	[授業概要(廣3)] 鍼灸臨床における特殊鍼法の小児鍼について	参考文献による講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(廣3)] 特殊鍼法の小児鍼についてその方法について理解することができる。	

28	[授業概要(鶴1)] 鍼灸臨床における医療過誤(事故)、副作用、インシデント(ヒヤリハット)などについて	鍼灸医療安全ガイドラインなどに目を通しておく。
	[到達目標(鶴1)] 鍼灸臨床における医療過誤(事故)、副作用、インシデント(ヒヤリハット)などについて理解する。予防策などについて理解する。	
29	[授業概要(角谷1)] 形態学的、機能学的にみた経絡について	生体刺激の伝導路とその特徴について見直して学習しておく。
	[到達目標(角谷1)] 経絡を基礎医学的に捉えて理解することができる。	
30	[授業概要(角谷2)] 形態学的、機能学的にみたツボについて	生体刺激の伝導路とその特徴について見直して学習しておく。
	[到達目標(角谷2)] 診察点であり治療点であるツボを基礎医学的に捉えて理解することができる。	
31	[授業概要(和辻1)] 東洋医学の診察法、舌診の特徴・基本的診察法について学習する。	「新しい鍼灸診療」を読み理解を深める。
	[到達目標(和辻1)] 東洋医学の診察法の概要、舌診の特徴や基本的診察法、正常な舌所見などが説明できる。	
32	[授業概要(和辻2)] 舌診の基本的診察法・臨床応用について学習する。	「新しい鍼灸診療」を読み理解を深める。
	[到達目標(和辻2)] 舌診の基本的診察項目が説明できる。また舌診所見と病証との関係や予後判断が理解できる。	
リポート課題	<p>《課題1》形態学領域 『体表解剖と皮膚組織と鍼灸臨床との関連について』</p> <p>《課題2》機能学領域 『体表刺激と生体の調節機能について』 講義テーマの中から、一つを選択し、そのテーマについて講義内容を参考にして、各自の視点でまとめる。 『体表に分布する感覚受容器について』 『痛覚について』『生体内の鎮痛機序について』 『体表刺激の筋緊張調節作用』 『消化吸収機能と体表刺激について(前半:胃運動に対する体表刺激)』 『消化吸収機能と体表刺激について(後半:小腸運動に対する体表刺激および胃酸分泌に対する体表(鍼)刺激)』 『循環機能と体表刺激について』 『エネルギー代謝と酸化ストレスに対する体表刺激について』</p> <p>《課題3》免疫学領域 『鍼灸刺激が生体防御系調節に関与し得る作用とそのメカニズムにつ</p>	

	<p>いて』</p> <p>《課題4》基礎鍼灸学領域</p> <p>4つのテーマから1つのテーマを選び、考察する。</p> <p>『東洋医学の古典文献の検索方法について』</p> <p>『形態学的・機能学的にみた経絡について』</p> <p>『鍼灸の安全性について』</p> <p>『鍼灸臨床における舌診の意義と臨床応用について』</p>
テキスト（配付資料）	<p>1. シンプル免疫学（改訂第5版），中島泉，高橋利忠，吉開泰信，南光堂</p> <p>2. 新しい鍼灸診療，北出利勝編集，医歯薬出版社，2006.</p> <p>※ 形態学・機能学領域については適宜指示する</p>
参 考 文 献	<p>1. 鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス，南江堂，北村清一郎・熊本賢三編集</p> <p>2. 解剖学アトラス，文光堂，越智淳三</p> <p>3. 体表解剖カラーアトラス，南江堂，佐藤達夫 監訳</p> <p>4. 生体の観察，医歯薬出版，星野一正</p> <p>5. 入門組織学，南光堂，牛木辰男</p> <p>6. 標準組織学 総論，医学書院，藤田恒夫・藤田尚男</p> <p>7. 標準組織学 各論，医学書院，藤田恒夫・藤田尚男</p> <p>8. Skin and its GRAY's Anatomy (40th Ed, Chapter 3, 7), Elsevier, Ch-Ed; Susan Standing（日本語版でもOK）</p> <p>9. もっとよくわかる！免疫学，河本宏，羊土社</p> <p>10. カラー図説・免疫、感染症と炎症性疾患における免疫応答，笹月健彦監訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>11. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル，尾崎昭弘著，医歯薬出版，2003</p> <p>12. 鍼灸臨床の科学，西條一止，熊澤孝朗監修，医歯薬出版，2000</p> <p>13. 東洋医学を学ぶ人のために，高木健太郎他監修，医学書院，1984</p>
評 価 方 法	<p>小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。</p>
その他（アドバイス等）	<p>領域毎に随時、適当な文献を紹介する。</p>

授 業 科 目 名	臨床鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単 位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者) (○は領域責任者)	◎ 廣 正基 ○ 福田文彦、苗村健治、浅沼博司 ○ 伊藤和憲、糸井 恵、高羽夏樹、田口玲奈 ○ 廣 正基、谷口剛志、山崎 翼、吉田行宏					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、現代西洋医学の各診療科および鍼灸臨床の専門分野において、最新の知見について学習し、臨床鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	<p>現代西洋医学の各診療科の分野における鍼灸臨床の対象となる可能性がある、あるいは有効と考えられるものを取り上げ、ガイドライン、診断法、治療法及び評価法などについて、最新の現代医学及び鍼灸医学に関する知見を教授する。また、鍼灸臨床の応用分野(スポーツ、予防・未病医療、高齢者医療)における意義と役割について教授する。</p> <p>【内科系領域】 (苗村健治/1回) 呼吸器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (浅沼博司/1回) 呼吸器系疾患および循環器疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (福田文彦/4回) 内科領域およびうつ状態(病)における予防及び治療及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (廣 正基/1回) 生活習慣病である高血圧症に対する鍼灸治療について、最近の知見を教授する。</p> <p>【外科系領域・整形外科系領域】 (伊藤和憲/2回) 上肢・下肢の診方(筋痛症含む)に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (糸井 恵/2回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (高羽夏樹/1回) 泌尿器科疾患(主として神経因性膀胱)における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (伊藤和憲/2回) 急性痛と慢性痛の診方について、最新の知見を教授する。 (田口玲奈/2回) 産婦人科(特に月経困難症)の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p>					

	<p>【応用鍼灸系領域】</p> <p>(鶴 浩幸/1回) めまい・耳鳴に関する最新の知見について教授する。</p> <p>(廣 正基/1回) 生活習慣病である高血圧症について、鍼灸臨床の応用について、特に血圧管理の観点から最近の知見を教授する。</p> <p>(山崎 翼/1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に産業医学の観点から最近の知見を教授する。</p> <p>(吉田行宏/1回) コンデショニングに関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(吉田行宏/1回) スポーツ鍼灸について最新の知見について教授する。</p> <p>(谷口剛志/1回) 海外におけるスポーツ鍼灸事情の最新の知見について教授する。</p> <p>(谷口剛志/1回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p>	
視 点 (ねらい)	<p>【内科系領域】</p> <p>1. 内科系疾患及び症状(一部精神疾患を含む)において鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについてガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【整形外科系領域】</p> <p>1. 整形外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【外科系領域】</p> <p>1. 外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【応用鍼灸系領域】</p> <p>1. スポーツ分野、予防・未病医学分野、高齢者医療分野における病態、予防・治療法及び鍼灸臨床の意義と役割について理解すること</p>	
授 業 計 画		
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
1	<p>[授業概要(福田文1)] 糖尿病の疫学と病態について概説した上で、糖代謝に及ぼす鍼刺激効果について研究結果を交えて説明し、鍼灸治療が糖尿病に貢献する可能性について教授する。</p> <p>[到達目標(福田文1)] 糖尿病の疫学と病態について理解した上で、鍼灸治療が糖尿病においてどのような役割を担うことができるかを説明できる。</p>	<p>糖尿病の病態生理については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。鍼灸治療と糖尿病との関係については講義スライドで引用している学術雑誌等の内容を中心に補足勉強してください。</p>

2	[授業概要(福田文2)] 消化器疾患、特に食道及び下部消化管の病態と鍼灸治療について講義する。	各疾患の病態については、指定参考書で勉強してください。その他はスライドを参照の上、適宜参考文献で補足してください。
	[到達目標(福田文2)] 消化器疾患、特に食道及び下部消化管の病態と鍼灸治療について理解できる。	
3	[授業概要(福田文3)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について講義する。	各疾患の病態については、指定参考書で勉強してください。その他適宜参考文献で補足してください。
	[到達目標(福田文3)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について理解できる。	
4	[授業概要(苗村)] 気管支喘息の診断と治療	吸気疾患の診断及び治療について、指定参考書を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(苗村)] 気管支喘息の、現代医学からみた、病因、症状、診断、治療について理解する。	
5	[授業概要(浅沼)] 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。	循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(浅沼)] 日常診療でしばしば遭遇する循環器疾患における診断と治療について理解できる。	
6	[授業概要(福田文4)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について解説する。	うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握について予習する。
	[到達目標(福田文4)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について理解する。	
7	[授業概要(廣 1)] 生活習慣病である高血圧症について日本の高血圧ガイドラインについて教授するとともに、血圧に及ぼす鍼灸刺激の最近の知見について教授する。	
	[到達目標(廣 1)] 生活習慣病である高血圧症について日本の高血圧ガイドラインについて説明できるとともに、血圧に及ぼす鍼灸刺激の最近の知見について説明できる。	
8	[授業概要(伊藤1)] 上肢の痛みと筋痛疾患	はじめてのトリガーポイント鍼治療(医道の日本社)、ビジュアルでわかるトリガーポイント治療(緑書房)等で事前学習しておくことが望ましい。
	[到達目標(伊藤 1)] 頸肩腕症候群や肩関節周囲炎など筋肉が関与する上肢の痛みに対して、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。	
9	[授業概要(伊藤2)] 下肢の痛みと筋痛疾患	同上
	[到達目標(伊藤 2)] 慢性腰痛など筋肉が関与する下肢の痛みに対して、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。	

10	[授業概要(糸井恵1)] 関節疾患（変形性関節症など）の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。 [到達目標(糸井恵1)] 関節疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	関節疾患の基礎知識については参考書を利用して適宜補ってください。
11	[授業概要(糸井恵2)] 腰椎疾患（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など）の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。 [到達目標(糸井恵2)] 腰椎疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	教科書を読んで、腰椎疾患の西洋医学におけるガイドラインを理解する。（診察法、診断法、治療法について）。
12	[授業概要(高羽1)] 泌尿器疾患（主として下部尿路症状）の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。 [到達目標(高羽1)] 泌尿器疾患（主として下部尿路症状）の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる。	講義スライドで出てくる用語については、参考書を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。
13	[授業概要(伊藤1)] 急性痛に関する診察方法と鍼灸治療のエビデンスや治効機序を教授する。 [到達目標(伊藤1)] 急性痛に対する鍼灸治療を理解する。	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本（医道の日本）を参照。
14	[授業概要(伊藤2)] 慢性痛に関する診察方法と鍼灸治療に関するエビデンスや治効機序を教授する。 [到達目標(伊藤2)] 慢性痛に対する鍼灸治療を理解する。	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本（医道の日本）を参照。
15	[授業概要(田口)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。
16	[到達目標(田口)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。	
17	[授業概要(吉田1)] コンデショニングに関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 [到達目標(吉田1)] コンデショニングに関し理解する。	
18	[授業概要(吉田2)] スポーツ鍼灸について [到達目標(吉田2)] スポーツ分野における予防・治療法及び鍼灸臨床（スポーツ鍼灸）の意義と役割について理解すること	

19	[授業概要(鶴1)] 耳鳴・めまいについて	関連文献(学術論文)などに目を通しておく。
	[到達目標(鶴1)] 耳鳴・めまいのメカニズム及びその鍼治療について理解する。	
20	[授業概要(廣1)] 生活習慣病である高血圧症の鍼灸臨床の応用について教授する。	
	[到達目標(廣1)] 生活習慣病である高血圧症の鍼灸臨床の応用について説明できる。	
21	[授業概要(廣1)] 未病医学における鍼灸臨床の応用、生活習慣病である高血圧症について血圧管理の観点から最近の知見を教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。
	[到達目標(廣1)] 日本の高血圧ガイドラインについて把握するとともに、高血圧に対する鍼灸臨床の現状および血圧管理への応用について理解する。	
22	[授業概要(山崎1)] 労働者の健康状況や健康問題についてふれ、それに対する鍼灸治療の有用性について紹介する。	関連文献(論文)による予習と復習をする。
	[到達目標(山崎1)] 労働者の健康管理を目的とした、産業領域における鍼灸治療の実際について知識をえる。	
23	[授業概要(谷口1)] 海外におけるスポーツ鍼灸について教授する。	
	[到達目標(谷口1)] 海外におけるスポーツ鍼灸について理解する。	
24	[授業概要(谷口2)] スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について	
	[到達目標(谷口2)] スポーツ傷害の病態に関し理解する。	
リポート課題	<p>《課題1》【内科系領域】</p> <p>内科系疾患及あるいは症候(消化器、呼吸器、循環器)またはうつ病のいずれか1つについて、疾患(症候)の分類、診断、評価等について概説した上で、鍼灸治療の可能性について既存のエビデンスを含めて考察する。</p> <p>《課題2》【整形外科系領域】</p> <p>整形外科系疾患及び及び症状(腰下肢痛、膝痛、上肢痛、下肢痛など)からいずれか1つを選んで、ガイドライン、診断法、治療法、評価法及び鍼灸臨床の可能性について考察する。</p> <p>《課題3》【外科系領域】</p> <p>外科系疾患及び症状において、ガイドライン、診断法、評価法及び鍼灸臨床の可能性について、講義内容に含まれる疾患や症状の範囲か</p>	

	<p>らいずれか1つを選んでレポートする。</p> <p>《課題4》【応用鍼灸系領域】</p> <p>スポーツ傷害分野、予防・未病医療分野、高齢者医療分野のいずれか1つを選んで、鍼灸臨床の意義及び役割についてエビデンスを踏まえて考察する。</p>
テキスト（配付資料）	『図解 鍼灸療法技術ガイド』矢野忠他編著 文光堂 2010
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学第7版：杉本恒明ほか編，朝倉書店，2009 2. 新臨床内科学第9版：高久史磨ほか編，医学書院，2009 3. 鍼灸学臨床編：天津中医薬大学ほか編，東洋学術出版社，1993 4. 標準外科学：北島政樹編集，医学書院，2010 5. 標準整形外科学：中村利孝編集，医学書院，2008 6. 図解整形外科学診断ガイド：露口雄一他著，文光堂，1996 7. 整形外科テスト法：斉藤明議監訳. 医道の日本，1995 8. 排尿障害のすべて：渡邊決著 医薬ジャーナル社，1998 9. よくわかる排尿トラブルの対処法：三木恒治・中尾昌宏編，昭和堂，2008 10. 現代の眼科学（改訂第9版）：所 敬，吉田晃敏編著，金原出版，2006
評 価 方 法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。
その他（アドバイス等）	全日本鍼灸学会雑誌参考。随時、参考文献・資料を指示・推薦する。

授 業 科 目 名	教育学概論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	◎ 河井正隆、廣 正基					
テ ー マ	教育学の理解とそれに必要な知識の学修					
授 業 の 概 要	教育学について、理療教育学を中心として学習し、その内容について理解する。特に、①理療教育の序論、②教育方法、③教材の作成と評価、④教育実習、⑤教育心理、⑥発達、⑦特別支援教育、⑧児童心理などについて理解を深め、教育学の基礎的内容について理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 教育学の基礎的内容について理解する 2. 理療教育について必要な知識 3. 教育方法や評価について理解すること 4. 教育心理や児童心理などについて考えること					
授 業 計 画						
回	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 理療教育学 序説 (河井 1) [到達目標] 理療科教育に関する基礎的内容について理解する。			関連論文および資料などの読解		
2	[授業概要] 教育方法と技術のとらえ方 (河井 2) [到達目標] 教育方法とその技術について、基礎的な内容を理解する。			関連論文および資料などの読解		
3	[授業概要] 教材の作成と教育評価 (河井 3) [到達目標] 教材の作成方法とその教育評価について、実際の方法に基づいて学習し、理解する。			関連論文および資料などの読解		
4	[授業概要] 教育実習 (概論) (河井 4) [到達目標] 教育実習の概論について学習する。			関連論文および資料などの読解		
5	[授業概要] 教育心理学とこころの構造 (廣 1) [到達目標] 教育心理学とこころの構造について基礎的内容を理解する。			関連論文および資料などの読解		
6	[授業概要] さまざまな発達 (廣 2) [到達目標] 発達に関する基礎的内容について理解する。			関連論文および資料などの読解		
7	[授業概要] 特別支援教育 (廣 3) [到達目標] 特別支援教育について基礎的な内容を学習し、理解する。			関連論文および資料などの読解		

8	<p>[授業概要] 児童期・思春期・青年期の問題 (廣4)</p> <p>[到達目標] 不登校やストレス、いじめなどを含めた諸問題を含めて、各時期の問題について学習し、理解する。</p>	<p>関連論文および資料などの読解</p>
<p>リポ ー ト 課 題</p>	<p>◆設問1 (※ 教育学概論 第1講から第4講までを参照) 「4回の授業からあなた自身が考える、今後の鍼灸教育における教育方法についてまとめてください」 (用紙・字数：A4版、1,000字～1,500字)</p> <p>◆設問2 (※ 教育学概論 第5講から第8講までを参照) 「青年期における鍼灸教育について、今回の講義から、どのように考えるか、学習方法、特別支援、青年期の問題を踏まえて、まとめてください」 (用紙・字数：A4版、1,000字～1,500字)</p>	
<p>テキスト(配付資料)</p>	<p>配布資料及び 吉川恵士(監修)：理療教育学 序説, ジアース教育新社, 2015.</p>	
<p>参 考 文 献</p>	<p>特になし</p>	
<p>評 価 方 法</p>	<p>最終レポートより評価する(60点以上を合格とする)。</p>	
<p>その他(アドバイス等)</p>	<p>特になし</p>	

授 業 科 目 名	鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎角谷英治、伊藤和憲、川喜田健司、田口玲奈					
テ ー マ	最新の基礎研究におけるトピックス、特に鍼灸医学と関連するテーマを取りあげ、基礎医学研究の成果とその意義について考える。					
授 業 の 概 要	<p>(概要) 現代医学における基礎研究の最新のトピックスを取りあげ、どのような研究が注目され、研究対象とされているかについて医学情報を紹介し、最新の基礎医学研究の成果とその解釈(考察)について教授する。</p> <p>(川喜田健司/1回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。(トリガーポイントの発現機序を含む)</p> <p>(伊藤和憲/1回) 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系に関し最新の知見について教授する。</p> <p>(田口玲奈/1回) 鍼灸刺激の自律機能に対する影響に関し最新の知見について教授する。</p> <p>(角谷英治/5回) 鍼灸刺激と鎮痛系に関する最新の知見として、ハリ刺激の鎮痛効果とその作用機序などについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みに関する最新の知見について理解すること 2. 体性自律神経反射の最新の知見について理解すること 3. 最新の基礎医学研究の進歩について考えること 					
授 業 計 画						
回	概 要			備考(授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要(川喜田1)] トリガーポイントの成因と鎮痛機序			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(川喜田1)] トリガーポイントの成因と内因性鎮痛系への関与を理解する。					
2	[授業概要(伊藤1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系に関し最新の知見について					
	[到達目標(伊藤1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系に関し理解する。					
3	[授業概要(田口1)] 鍼灸刺激の自律機能に対する影響に関し最新の知見について					
	[到達目標(田口1)] 鍼灸刺激の自律機能に対する影響に関し理解する。					
4	[授業概要(角谷1)] 鍼鎮痛の概要			鍼刺激の特性と内因性鎮痛系について予習する。		
	[到達目標(角谷1)] 鍼鎮痛の概要について理解できる。					

5	[授業概要(角谷2)] 上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛	上行性痛覚抑制系と末梢性鎮痛に関する論文を読み、簡単にまとめる。
	[到達目標(角谷2)] 鍼鎮痛における上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛の関与の可能性について理解できる。	
6	[授業概要(角谷3)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路(1)	
	[到達目標(角谷3)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路について理解できる。	
7	[授業概要(角谷4)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路(2)	
	[到達目標(角谷4)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路について理解できる。	
8	[授業概要(角谷5)] 鍼灸刺激とその刺激部位について	
	[到達目標(角谷5)] 鍼灸刺激とその刺激部位について理解できる。	
リポート課題	《課題》 1～8回の授業から一つを取り上げ、授業内容を整理するとともに考察を加える。	
テキスト(配付資料)	※ 参考文献を参照	
参 考 文 献	1. トリガーポイント鍼両方, 川喜田健司慣習, 医道の日本社, 1995 2. 痛みのメカニズム, 横田敏勝, 南江堂, 1997 3. 鍼灸臨床の科学, 西条一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000. 4. 体性-自律神経反射の生理学, 佐藤 昭夫/佐藤 優子/R.F. シュミット 山口 眞二郎, シュプリンガー・ジャパン, 2007.	
評 価 方 法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。	
その他(アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。	

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	医学古典に関する研究、東洋医学の理論に関する研究、経絡経穴現象に関する研究、四診法の客観化に関する研究などに関する研究法を教授する。 (和辻 直) 四診に関する研究法を教授する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リポ ー ト 課 題	(和辻 直) 《課題1》『舌診に関する研究法について』 《課題2》『証に関する研究法について』					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	角谷英治					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸基礎医学分野における研究課題(安全性を含む)、特にヒトを対象とした研究法について教授する。 (角谷英治) ヒトの痛みの測定及び痛み反応に関する研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リ ポ ー ト 課 題	<p>レポート課題は、研究課題と関連する課題とする。 (角谷英治)</p> <p>《課題1》『ヒトにおける痛みの反応を指標とした研究内容について』 《課題2》『ヒトにおける痛み及び痛み反応の測定法について』</p>					
テ キ ス ト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
そ の 他 (ア ド バ イ ス 等)	レポート課題に関連する学術雑誌					

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、福田文彦					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸臨床医学分野における研究課題、特にヒトを対象とした研究法について教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉痛(筋痛症を含む)における鍼灸の臨床研究に関する研究法(疫学的な調査研究法含む)について ・運動器系、特に腰痛における鍼灸の臨床研究に関する研究法(疫学的な調査研究法含む)について ・心身医学・精神疾患及び症状における鍼灸の臨床研究に関する研究法(疫学的な調査研究法含む)について 					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リ ポ ー ト 課 題	<p>(伊藤和憲)</p> <p>《課題1》『筋肉痛(筋痛症含む)に関する研究内容について』</p> <p>《課題2》『筋肉痛(筋痛症含む)における各種測定・評価法について』</p> <p>(井上基浩)</p> <p>《課題1》『腰痛に関する研究内容について』</p> <p>《課題2》『腰痛における各種測定・評価法について』</p> <p>(福田文彦)</p> <p>《課題1》『心身医学・精神疾患(症状含む)に関する研究内容について』</p> <p>《課題2》『心身医学・精神疾患(症状含む)における各種測定・評価法について』</p>					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
その他(アドバイス等)	レポート課題に関連する学術雑誌					

授 業 科 目 名	健康予防医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス分野(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3分野)におけるヒトを対象とした臨床的な研究課題に関する研究法を教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リ ポ ー ト 課 題						
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
その他(アドバイス等)	レポート課題に関連する学術雑誌					

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	より高度な東洋医学の診断法・治療法と日本で独自に発展してきた伝統医学の診断・治療法、さらに医学古典、東洋医学の理論などの諸問題について教授・研究する。 スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。 (和辻 直) 東洋医学の診察法に関する研究成果の諸問題点について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
リ ポ ー ト 課 題	《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その1 《課題2》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その2					
テ キ ス ト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。 面接授業（スクーリング）については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
その他（アドバイス等）	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	角谷英治					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸刺激および刺鍼手技・施灸手技などの作用機序に関する研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)及び鍼灸の安全性について教授・研究する。スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。 (角谷英治) 鍼灸刺激の作用機序、特に鎮痛系に関する諸問題について教授・研究する。					
視 点 (ねらい)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
リポ ー ト 課 題	(各教員共通) 《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』					
テ キ ス ト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。面接授業(スクーリング)については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
そ の 他 (ア ド バ イ ス 等)	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、角谷英治、福田文彦					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。 ・筋肉痛(筋痛症含む)の臨床研究に関する諸問題について ・運動器系、特に腰痛の臨床研究に関する諸問題について ・心身医学・精神神経科領域の臨床研究に関する諸問題について					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
リ ポ ー ト 課 題	(各教員共通) 《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その1 《課題2》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その2 《課題3》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その3					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。面接授業 (スクーリング) については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
その他 (アドバイス等)	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	健康予防医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3つの領域)の分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
リ ポ ー ト 課 題	(各教員共通) 《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。面接授業 (スクーリング) については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
その他 (アドバイス等)	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	特別研究 I					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材 (4 単位) 面接授業 (4 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
リ ポ ー ト 課 題	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	研究計画書に基づき研究を進め、スクーリング時に特別研究の直接指導を受ける。その後、中間発表を行い、最終学年時に修士論文を提出し、審査員による口頭試問により評価を行う。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	5 単位	授業形態	印刷教材 (4 単位) 面接授業 (4 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
リ ポ ー ト 課 題	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	研究計画書に基づき研究を進め、スクーリング時に特別研究の直接指導を受ける。その後、中間発表を行い、最終学年時に修士論文を提出し、審査員による口頭試問により評価を行う。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅲ					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 研究指導					
2	[授業概要] 研究指導					
3	[授業概要] 研究指導					
4	[授業概要] 研究指導					
5	[授業概要] 研究指導					
6	[授業概要] 研究指導					
7	[授業概要] 研究指導					
8	[授業概要] 研究指導					
9	[授業概要] 研究指導					
10	[授業概要] 研究指導					
11	[授業概要] 研究指導					
12	[授業概要] 研究指導					
13	[授業概要] 研究指導					
14	[授業概要] 研究指導					
15	[授業概要] 中間発表					
16	[授業概要] 研究指導					
17	[授業概要] 研究指導					
18	[授業概要] 研究指導					
19	[授業概要] 研究指導					
20	[授業概要] 研究指導					
21	[授業概要] 研究指導					
22	[授業概要] 研究指導					
23	[授業概要] 研究指導					
24	[授業概要] 研究指導					
25	[授業概要] 研究指導					
26	[授業概要] 研究指導					
27	[授業概要] 研究指導					
28	[授業概要] 研究指導					
29	[授業概要] 研究指導					
30	[授業概要] 中間発表					

リポ ー ト 課 題	各研究指導教員の指示による。
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。
その他 (アドバイス等)	

MEMO